



イエス団報

Jesus band news

2010 / 07 / 31

12

再刊 12 号

- 2009 年度イエス団職員研修を振り返って
- イエス団大集会
- キリスト精神の継承
理事長 村山盛嗣
- 2009 年度イエス団研修会報告
ブラッシュアップ研修会
幹部職員研修会
- イエス団施設トピックス
賀川記念館
ガーデン エル・ロイ
聖浄保育園

発行：2010 年 7 月 31 日
発行者：村山盛嗣
編集・発行：
社会福祉法人・学校法人 イエス団
〒651-0076
兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20
TEL：078-221-9565
FAX：078-221-9566
<http://www.jesusband.jp>

2009 年度 イエス団職員研修を

振り返って

2009 年は賀川豊彦献身 100 年記念の年でした。理念委員会による「ミッションステートメント 2009」の制定をはじめ、賀川記念館の献館、献身 100 年記念式典、イエス団職員大集会など、昨年(2009 年)は私たちのイエス団にとって記念すべき一年でした。同時に「賀川問題」など、今後に引き続き検証していくべき課題も与えられました。

イエス団報 12 号では、2009 年を振り返りつつ、8 月に行われたブラッシュアップ研修と、11 月に行われた幹部職員研修、イエス団職員大集会について紹介します。



イエス団大集会 2010 年 1 月 31 日 於：西山記念会館



ジーザスバンド結成！…「わたし～たちは～ろばのこ～です～♪」にわかバンド？とは思えないチームワークで会場に集まった大勢のイエス団職員をリードし、讃美の声が一つになりました。



イエス団大集会で実行委員として、各施設の委員の方々とは企画会議の回数を重ねていくうちに、お互いうちとけ「仲間」という気持ちが芽生えてきました。初めてのことで、試行錯誤をしながらも、大集会が実りあるものになるよう進めてきました。

当日は、ジーザスバンドで歌った讃美歌や賀川先生について学んだこと、MS2009を通して各施設の方々と意見交換したことなど、共感したり得るものがたくさんあったと思います。

親睦会では、各施設の様子がよくわかり、ユニークな質問に笑ったり、施設の枠を超え盛り上がったりと楽しいひと時が持てました。至らないところもあったと思いますが、イエス団の一員としてみんなが仲良くなるお手伝いできたように思います。

これからもイエス団の仲間として、みんなと繋がっていければと思います。

大集会実行委員 根口京子(杉の子保育園主任保育士)

キリスト精神 の継承

社会福祉法人・学校法人イエス団
理事長 村山 盛嗣



賀川先生との出会い

1957年(昭和32年)、賀川先生に初めて出会い、「自分の故郷の徳島で伝道してくれないか。毎年1年で逃げて帰ってくるから、5年間頑張れる人がほしい。」と言われ、5年間頑張るつもりで引き受けました。和歌山から南海汽船に乗り、地球の果てに行くような心細い気持ちで、徳島に向かいました。

けれども6ヶ月経たないうちに、先生から「神戸へ来てくれないか?」と言われ、「なんと勝手な先生だ、偉い先生だと思っていたけれど。」と思いました。赴任して1年もたたないうちに、なぜ先生がそう思われたのか、未だに心変わりした理由が分かりません。

私は「5年間の約束だから。」とお断りをしました。先生は、教会の役員に「村山君はなんか誤解している。」と言われたようです。「誤解をしているのは賀川豊彦だ。」と思った私は直接お断りしたいと思い、先生に都合を聞くと「ちょうど、宝塚で講演するから、その講演が終わったら、お話しする事にしましょう。」と言うことになりました。

偉い先生にお会いするのだからと、関西汽船に乗りながら、頭で一つ、二つ、断る理由を、何回も何回も考え、会場に向かいました。会場に着くと、先生は足がよぼよぼされているような、あまりよくない体調で講演を終え戻ってこられました。そして部屋の隅に連れて行かれたので、お話をしようとしたら、先生の方が、腰をものすごく曲げて「どうぞ、よろしく願います。」と言われたので、私は「はい。」と返事をしました。

「何だったのだろう。あれだけ整理して、断りの言葉を何回も繰り返していたのに、なにも言えず『はい』と言ってしまった。なんとふがいない。いくら偉い先生でも、私はそこで言うべきことを言えなかった。」と長い間悔いていますが、これが先生の人格の力だと言えるでしょう。ある方が、「賀川という人は、言っていることは理不尽なのだが、それを断る方が悪いようにさせる不思議な力を持ってられる。」というお話をされているのを聞いて、「ああ、これなんだな。」と思いました。

賀川先生の遺言

1959年(昭和34年)1月が先生の最後の説教になりました。『祈りと、愛の相続…長尾巻に学ぶ。』と題し、長尾巻牧師のお話をされました。当時それほど思わなかったですが、先生が亡くなられた後から、「ああ、あれが先生の遺言だったんだ。」と思いました。

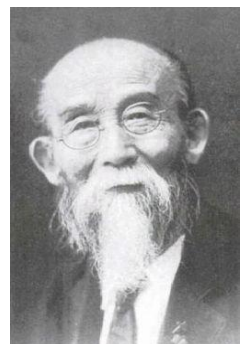
先生自身決して『賀川を継いでくれ。』とは思っておらず、『長尾巻に学ぶ。』と思っておられました。「キリスト精神を実践した長尾巻牧師に、お前たちみんな学んでほしい。私が最後に言

う言葉はそれなんだ。」と言いたかったのでしょう。「ハンセン氏病の人が来たら、家の者が一つの布団にみんなで入っている、このたった一つの布団を差し上げて一緒に寝てあげる。あの長尾巻という人こそキリスト精神を実践した人だ。そのキリスト精神を継いでくれ。」と言うのが賀川先生の最後の説教だったのです。

先生の最後の説教の時、ヘブル人への手紙第11章全体を引用されました。これが先生の遺言なのです。11章をはじめから読んでみるとそこには、旧約聖書のアブラハム、イサク、ヤコブ、モーセ、ヨシュヤ、と歴史を並べて、それらの歴史全てが一つの精神で貫かれ、最後にこの言葉が出てきます。『神は私たちのために、更にまさったものを計画してくださったので、私たちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。』この『私たち』を、『今の私たち』に読み替えると、「この私たちは今の私たちです。あなたです。私です。『今の私たちを除いては、彼ら(彼らと言うのは、賀川先生です。複数になっているのは、賀川先生の仕事を一緒に手伝った同僚たちです。またイエス団の施設を築いた先生たち、我々の先輩です。)は、完全な状態に達しなかったのです。』」と言われました。

これはどう言う事か。歴史を見た時に、一人の人がどんな働きをしても、それは途中で終わってしまうが、歴史は続いている。そして、それに続いている者があるから、働きは完全に近づいていく。皆さんは『私たちはつたない者だ。』と思っているかもしれない。『賀川先生みたいな偉大な人で、話が立派で、仕事而立派で…。あるいは法人に連なった設立者たちは偉いけれども、こんなまねはできない。』と思っているかもしれないが、このような人たちに続く我々が一人でも欠けたら、完全にはならない。イエス団に連なる一人が欠けても、それは完全ではない。神様はそういうふうにならしたのです。自分がつたない者だと思ったら、神様は『あなたは、かけがえのない命を与えられているのだよ。』と言ってくださる。そして『あなたはかけがえのない仕事を与えられているんだよ。』という思想が、この中に入っているのです。

だから先生は、『自分を継いでくれ。』と言うような事を一つも思っていない。自分も前の人たちのキリスト精神を受け継いで、一つの役割を果たしただけだと。私を継ぐんじゃなくて、私のキリスト精神を継いでいただきたい。これが、『長尾巻に学ぶ』と言う遺言なのです。『キリスト精神を継承して行く』というのは、こういう事なのです。



長尾巻牧師

キリスト精神

— イエス団のいのち —

イエス団は、近畿5府県、四国2県の7府県にまたがって施設を運営しています。イエス団は、当初、財団法人として仕事をしていましたが、昭和28年に国が支配しやすくするために、幼稚園は学校法人、社会福祉事業は社会福祉法人として、皆

そこに集まらないうと、税金は出さないう制度を作りました。そのためそれぞれに運営している施設が、各々で法人格をとるという事では力が弱くなるので、「一緒にやらないか。」と言う事で一つの社会福祉法人に集まったのが現在のイエス団の社会福祉施設の始まりです。その時に先生は、「一緒にする時にどういう精神でやっていくか。」と考えました。しかし、国は定款準則と言う型を作って、「これにあてはめて法人を作りなさい。」と指導し、大体は皆その通り申請をして、認可を受けました。

しかし、なお先生は、「それぞれが思い思いにやってきた施設を、何によって一つに統一しようか。」と考え、『キリスト精神』と言う言葉を生み出しました。

『キリスト精神』というのは、「キリスト教による福祉」と「キリスト教による教育」をするのではなく、『「キリスト」の精神によって、社会福祉法人イエス団を運営していく』というものです。『教』をつけなかったのは、キリスト教は聖書によって立っていますが、いつの間にか組織を大きくし、建物が立派になり、人間が見えなくなってしまう、目に見えるもの、目に見える組織、目に見える学問、神学を大事にし、人間をおろそかにするようになりました。先生はそれを一番嫌ったのです。キリスト精神はイエス団の精神なのです。

学校法人を作るときも、「キリスト精神によって」と申請しましたが、兵庫県の担当者に「イエス団という名前はやめて、〇〇学園でないと認可できない。学校法人二葉学園 二葉幼稚園にしてくれ。」と言われました。私は「それはできません。このイエス団は『イエス・キリストの精神』によって財団法人イエス団を運営してきた。何も私たちは財団法人でする事に不便を感じません。学校法人にしないと税金を回さないと国が勝手に決め、せっかく私たちがつけた名前を国によって変えられたりというのは、私にはできない。」と言いました。県の担当者は「なんでできない。」と言うので、「何でできないって、今言ったとおりです。なぜこれを変えないといけないのですか？学校法人同志社や学校法人関西学院というのがあるじゃないですか、どれもみな〇〇学園になっていない。それを認めて、なぜイエス団だけは認められないのですか。」と言いました。担当者は大変困り、「そういう規則になっているから。」と言い、私は「では、規則や法律を見せてください。」と返すと、「ない。」と言ったので、「法律にもないことを、なぜ従わなければならないのですか。」と問答しました。

何ヶ月か通い最後まで認められず、いよいよ、私学審議会が審査をする事になりました。偶然、審議会の議長が知り合いだったので、「そうだ、あの先生に頼もう。」と頼みに行きました。「実はこうこう、こうだ。」と説明しましたが、はっきりと「分かりました。」とは言われませんでした。審議会が終わり、その先生のところへ行くと、「学校法人イエス団で認められましたよ。」と言われ、「やったあ！」と喜びました。

社会福祉法人では、新しい施設ができる度に、定款に載せるために変更届を出しています。そこで今から12、3年前のこと。定款に載せないと、措置費、雇用費などの補助金を支給しないという行政が多く、早く変更を認可してほしいという事情がありました。ところが役人と言うのは、頭を何回も何回も下げないと動かない。兵庫県へ行ってお願ひすると「聞いておき

ます。」という返事。しばらくしてまた県へ行くと、また「一回良く聞いておきますから。」とのこと。私は「聞いておきますからって、こっちは急いでいるんです。」と言うと、担当者は「このキリスト精神と言うのを、取って定款準則どおりしてもらわないと、国は認可を出さないとっています。」と言うので、私は怒りを抑えて「わかりました。そういう風にしなくちゃならないと言うことを文章で書いてください。そうでないうちの理事会では、それは簡単に通りませんから。キリスト精神と言うのは、私たちの命なのですから。」と言いました。

しばらくそのままにして、再び県に行き、「どうなんですか？」と問うと、「いや、文章に書けません。」と言われました。「そりゃ書けんでしょ。法律にもないことをね、なぜ私たちに強要するのですか。」と言いましたが、担当者は「何とか(削除)してくれ。」と言うばかり。それでも私は「いや、ぼくは理事会が『変えなければならない、削除しなければならない。』と納得するような文章がないと、帰れません。」と突っぱねました。またそれからしばらく放置され、とうとう、13年が経過しました。その間に担当者は5~6人と代わり、代わる都度に始めから説明しなくてはなりませんでした。担当者が最後に代わったところで、また同じ事、「これ(キリスト精神)が引っかかる。」と言われたので、「これはイエス団の命ですから。」と言うと担当者は、「命ならしょうがない！」と捨て台詞のようなことを言われて、ようやく認められた経緯がありました。

ルールは人のためにある

これがキリスト精神

私たちの仕事は、行政に言われて始めたのでは無く、行政に言われる前から仕事をしていたのです。だから、行政による基準によって動いているのではないのです。もちろんこれは、誤解をしてはいけません。正しいルールには従わないといけません。本当に子どもや老人主体のルールには従わないといけません。しかし、人のためではなく、行政のためにあると言うルールが沢山あるのではないのでしょうか。そう言うルールまで従わなくてはならないのでしょうか。

聖書を読むと、そんなルールには従わなくていいと書いてあります。法律は、人のためにあるのであって、人が法律のためにあるとは書いていません。これが聖書の精神です。

ルールは人のためにあるのであって、人がルールのためにあるのではない。これがキリスト精神なのです。

「イエス団憲章」と

「ミッションステートメント 2009」

このキリスト精神を献身90年の時に、『イエス団憲章』という形で書き表しました。ところがそれから10年経って、憲章は子どもにも分からない、新しい職員にも分からない、古い職員もなかなか理解しにくい。そういう経緯もあって『ミッションステートメント 2009』を策定しました。

キリスト精神を発揮するためには、どう言う基準で仕事をするのがいいか、と言うことを書いているわけです。

私たちはそれを実践するために、これから苦勞するでしょう。いや、苦勞しようではありませんか。いかに子どものために、高齢者のために、また障がいを持った子どもや大人の方と一緒に歩むために具体化するかと言うことは、非常に難しい事とは思いますが、そういう難しさを克服して、これを持ち越えて行こうではありませんか。」

賀川先生は偉い先生でしたが、一方で人間的には自分の弱さを非常に自覚されていた方です。仕事も、成功した仕事よりも失敗した仕事の方が沢山ありました。その度に先生は落ち込まれたと思います。

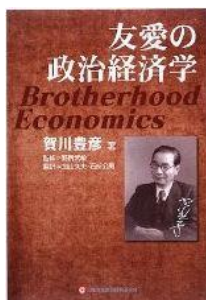
心に響いた

賀川先生の三つの言葉

そういう経験の中からこの賀川豊彦献身100年で、私の心に響いた言葉を三つご紹介します。

一つ目は、先生の主著『Brotherhood Economics』が、この度、ようやく日本語に訳され『友愛の政治経済学』として出版されました。

その中にこう言う言葉があります。



「愛は人間のチャンネルを通して流れ出る、神の働きなのである。」

先生は、キリストの愛にふれ、神によって生かされているという確信に至りました。そこから真実の愛をもって、仕事をされました。今日の資料に次のような先生言葉があります。

「私は愛より逃れることはできない。愛は私を絞首台にまで引っ張っていく。それでも私は愛を見捨てることができない。私は愛に受け入れられていく。愛に引きずられていく。この悲しき運命が私にとって大きな福音である。愛は私の一切である。」この『愛』は、先生が、「自分の働きではなくて、神さまの働き」と言われたように、『愛』と言うところを『神の働き』と言い替えることができます。「私は『神の働き』より逃れることはできない。『神の働き』は私を絞首台にまで引っ張っていく。それでも私は『神の働き』を見捨てることができない。私は『神の働き』に受け入れられていく。『神の働き』に引きずられていく。この悲しき運命が、私にとって大きな福音である。『神の働き』は私の一切である。」

もう一つは、武内勝さんという第一のお弟子さん（イエス団初代常務理事）が口述された本で、先生はこういうことをおっしゃっていました。

「私のすることは神の事業である。神の事業であれば、神助けたもう。」

これだけ聞くと傲慢に聞こえますが、「愛は私のチャンネルを通して、流れ出る神様の働きである。」と言う謙虚な言葉を通して、「私のすることは神の事業である。神の事業であれば、神

助けたもう。」とされています。先生は落ち込むと、おそらくここに帰って、ここから出発したに違いないと思います。

三番目の言葉を紹介します。

「欠点を感じることは、前進する者の経なければならない予備行動である」

先生は、自分の弱さを感じ、人から罵倒され、「お前は偽善者だ。」と言われて落ち込んで、そこからまた這い上がり、「いや、私のやっている事は真実の愛の働きである限り、神様はお我を用いたもう。」と言われました。これは、そのような経験を通して出てきた言葉ではないでしょうか。

1927年1月1日。先生は関西連合イエスの友修養会でお話しをされました。そこで一年を始めるにあたり、「私は神の姿を見ると、自分の醜悪さがはつきりする。自分は大偽善者であり、罪人の頭である。私はそれほど歪んだ人間である。その重荷に私は抱かれて落ちていく。私は自分の生涯を省みて、神がこのように価値無き者を使ってやろうとされる恵みを感じる。神はもう一度、私を創り変える方なのである。必ず変えられる方なのである。」という説教をされている。

その中で、「欠点を感じることは、前進するものの経なければならない予備行動である。」と言われました。そしてこのように締めくくられました。

「私たちは落ち込んだ時、この言葉を思い出しましょう。」

(2009年11月6日 イエス団幹部職員研修会
閉会礼拝の奨励より抜粋)



村山盛嗣理事長：一麦教会礼拝堂にて

賀川豊彦献身100年記念出版 「賀川豊彦とボランティア」

武内 勝：口述

村山盛嗣：編集

神戸新聞総合出版センター

ISBN978-343-00547-2



ボランティア
賀川の救貧活動は神戸から始まった

貧困・差別など様々な逆境のなかで、路傍説教をし、救済事業を起し、“協同組合の父”として大きな足跡を残した賀川豊彦。その原点となった神戸時代と、共に歩んだ人々の姿が、ありのまま語られた貴重な記録。

本書紹介文より

2009年度 イエス団研修会報告



ブラッシュアップ研修会

2009年8月29日(土)～30日(日) 於：ニチイ学館ポートピア研修センター

「ブラッシュアップ研修」に参加して

参加者レポート

研修会場に到着して、いきなり5つのグループに分かれ、面識のない人と昼食。2日間やっていけるかなと不安でいっぱい、緊張したままのスタートでした。自分の感じていること、思っていることを率直に話すだけでいい、その勇気が必要だと学びました。

そして、グループ内での話し合いでは、みんながそれぞれの意見や考えを受け止めてくれました。

交流会では、悩みを共有し、本音で語り合うこともできました。同じような立場の仲間がいること、心強く感じました。イエス様を知り、ジーザスバンドを知り、聖書に触れていくうちに人は、一人ひとり違っていいんだ、自分とかかわる人々、周りの人々に対して、違いを認め、愛をもって接するということに改めて気づかされました。

そして、勇気を持って相手にしっかり自分の思いを伝えていかないといけないということも気づきました。

自分が決めたステートメントを胸に、これからも励みたいと思います。自分を見つめなおす場を与えていただき、ありがとうございました。

馬見労働保育園 保育士 安井みゆき

私がまず驚いたのは、この研修のスケジュールでした。セッション120分(しかも2コマ)。一体誰がこんなハードな研修を考えたのだらう・・・とタイムテーブルにとらめつしたのを覚えています。

今回の研修ではイエス団理解、賀川先生について、ミッションステートメントについてのワークショップが大きな柱でした。

中でも特に楽しかったのはワークショップでした。私のグループは「いのちを大切に作る社会をつくりだす」という壮大なスケールのミッションステートメントで、このミッションを地域に対してどのように伝えていくのかメンバー全員頭を抱えて悩みました。しかしグループで話しているうちに、日々の保育の中で私たちがしていることではないかということに気づきました。

そして、保護者や地域の方々と一緒にこのテーマを考えてみたらという案がでました。わかばの木という絵本をヒントに大きないのちの木を描き、その葉っぱ一枚一枚にいのちを大切にするとはどういうことかを書いていきました。

発表のときには、うめぼし組というクラスでいのちの木を見ながら子どもたちと共に考えてみるという設定です。先生役も子ども役もアドリブでしたがとても面白かったですよ！！

このワークを通して、グループのメンバー一人ひとりが自分の役割を考え、積極的に関わっていくことでとても良いものができました。またグループの誰か一人でも欠けてしまったらこのいのちの木はできませんでした。

うめぼし組のように私たちもイエス団の一部であり、小さな存在ですがたしかに繋がっているのだなと感じた研修でした。

これからもそのことを覚えていつイエス団の人たちと共に歩んでいきたいです。

感謝して！

甲子園二葉幼稚園 蔭山 めぐみ

この研修会では、イエス団とともに働いてきた仲間たちとの再会や学びの機会が与えられたことに感謝します。

一つひとつの議題を丁寧に振り返り、自分の考えや意見をまとめることで、仕事に対する姿勢やこれから目標などが明確になりました。

また、研修の進行の仕方自体、大変勉強になりました。全体を通して「かかわりあう力」を引き出す研修となっており、自分からまわりに対して自然に働きかけができるように無理なくプログラムされていました。

自分に問うこと、自分の意見を伝えること、相手の思いを受け止めることを学び、研修会の参加者が、それぞれの職場に帰り、すぐに実践できたのではないかと思います。

研修の終わりに決意表明を行いました。

「子どもを学び、子どもと学ぶ」 自分のたてた決意を忘れないように、これからも勉めたいと思います。

瞳保育所 保育士 飯原有紀子





イエス団幹部職員研修会

2009年11月5日(土)～6日(金) 於：六甲YMCA 研修センター・一麦保育園・一麦教会

施設訪問「一麦保育園を訪問して」

保育園の門をくぐると、「だれのお母さん？」と元気に出迎えてくれた年長組の男の子。車を停めるのを見守ってくれたり、遊びを紹介してくれたり、どの子ども皆、初めての訪問者にも親切で人懐こく明るい笑顔…。愛されているなあ、園全体があったかい！それが私たちの感じた第一印象でした。

まず初めに、前田園長先生より園の保育についての説明がありました。保育の特徴は、担当制をとられているということ。特に0、1、2歳クラスではできるだけ家庭と同じようにと、温かい保育環境を整えておられました。

3、4、5歳クラスは、今年から縦割り保育をしておられます。5歳児は、保育者の手伝いをしながら3、4歳児を上手にリードしていました。食事も、年齢を考慮しての順番制を取り、3歳児が1番に食べて、お昼寝の準備。4歳児が食べている間、5歳児は遊んで待つ。それがごく自然に当たり前のようになされていて「とにかく静か！皆、安定して落ち着いている」これが私の感じたことでした。

共にある西宮一麦教会と甲子園二葉教会は、賀川先生と共に働かれた吉田源治郎牧師が牧会をした教会であり、姉妹教会ですので、私は以前からよく知っておりましたが、改めて訪問してみると、やはり自園と似通ったもの。同じような空気を感じました。それは、人懐こい子どもたちであったり、故郷のような安らぎであったり。

それは賀川先生が大切にされた「愛の実践」。即ち、「これらの最も小さい者の一人にしたのは、私にしたのである」という聖書の言葉の実践。これがまさにイエスの生き様に倣うということでしょうか。

一人ひとりが、本当に大切にされているということを目の当たりにしました。

梅村先生による「賀川豊彦と一麦」という力強いお話は、皆の心を打ちました。それぞれの施設の歴史を学ぶ中で感じたことと一麦保育園の歴史を知る中で感じたことが一つとなり、イエス団に連なる私たちは、皆つながっていると強く感じることができました。「これからよろしくね」という先生の言葉に、私たちは思いを新たにしました。これからの100年に向かって、皆で一緒に歩み続ける！そんなことを決意することができた一日でした。ありがとうございました。



一麦保育園 前園長 梅村貞造先生による講演

甲子園二葉幼稚園 田村三佳子

幹部職員研修 終了時アンケート結果の抜粋

1) あなたは今回の幹部研修について、どの程度満足しましたか。またその理由に合わせ、全体を通してあなたが気づいたこと、感じたこと、学んだことをお聞かせください。(箇条書きで)

- イエス団を通し、今一度、賀川を再確認させて頂きました。
- ほとんどが、新鮮に学んだという感じです。
- 事前準備で施設の歴史を調べる機会を持てた事
- ミッションステートメントについて取り組めたこと

2) 以下のセッションについて、あなたが気づいたこと、感じたこと、学んだことについて感想をお聞かせ下さい。

①「JESUSBAND」(谷口先生)

- 神様は私たちが弱い者であるということをご存知であることや、何度失敗してもはげましてくださるということをお聞きして、失敗を恐れて何もしないのではなく「人につかえる」ということを目標に、失敗しながら進んでいきたいと思いました。
- 自分もそのリングの一部となり、しっかりつながっていたいと思いました。
- 「イエスに倣う」ということの意味と、自分はどの行動していかないといけないのか深めて考える機会を頂きました。
- 同じ目的を持った者達が、寄って、合わさって、束ねられて、ちぎれそうになっても支え合いながら進んでいくという話が理解できた。(マークが素敵)

②「ミッションステートメント2009」(平田先生)

- 制度にとらわれるのではなく、必要とされている人たちの出会いから、働きがはじまる事をあらためて思った。
- グループ討議する中で、どれもつながっていることを感じる。具体化することで、見えてくる問題にも気づく。実践に向けて、何から始めるのか？良い機会となった。

③「賀川先生と一麦」(梅村先生)

- 賀川先生が先見の目をいつも向けられて、伝道活動を広め隣人をいつも愛され、共にされたことを知る。
- 「説教を見せられる」この言葉に感動。
- 現在とつながっている

3) 所属施設の沿革を調べることで、また互いの施設の沿革を知ることによって、感じたこと、考えたことについて、感想をお聞かせ下さい。

- 自分の施設を詳しく調べ、新たに知ることも多くあり、多くの方がつなげてくれた歴史をこれからも大切に受けついでいかなければと思った。いろんな施設のことも知ることができ、その思いは一つで「一人ひとりを大切にする」つながりを感じた。
- 各園、理念・方針の言葉は違うが、根底は愛があり、その部分では同じだと感じた。沿革を調べることで、園が設立した歴史を再確認するとともに、他園のこともわかってよかった。
- それぞれの違う施設だけど、柱は一緒なんだとすごく感じました。歴史を知ること、賀川先生の思いを少し感じることができました。
- それぞれ、所は違っても、賀川先生やその共働者によって設立され、愛や隣人によりそう、開拓的事業展開などの共通点が見られ、仲間意識が強まった事と、引き継いでいかなければいけないという思いを持つことができた。

4) 今回初めて施設見学(一麦保育園)を取り入れましたが、感想をお聞かせください。また、今後の希望についても合わせてお願いします。

- 他のイエス団の施設に見学に行くことは、ほとんど無いのでおもしろかった。お客さんではなく、今後人と人との交流がもっとできるようになっていければと思う。職員交換など。

5・6) 今後取り入れてほしい研修の内容・運営全体についての感想およびご意見を教えて下さい。

- このような研修に、もっとたくさんの人が参加でき、同じ方向を向いていけるようになれば、と感じました。
- ・老人ホームを中心とした問題などをテーマにして話し合う場がほしい。
・リスクマネジメントについても教えてほしいです。
- 施設見学会は、もっとあれば参加したいです。
- 同じ悩みのグループに分かれての話は、食後で気持ちがほぐれていることもあり、とても良かったです。今後も各々悩みや問題点など出し、それについて他園の取り組み、アドバイスなど頂ける機会があれば嬉しいです。
- 懇親会では、楽しいレクがあり、悩みを相談できる場があり、良かったです。幹部研修会というので、とても緊張しましたが、他の施設の方といろいろ話ができ、勉強になりました。イエス団のリングを強めるためにも、他の園の方ともしっかり交流をしていきたいと思いました。ありがとうございました。

研修会を振り返り

2009年度、企画委員会にて研修会スタッフが
起ちあがりました。ミーティングを進める中で20
09年。イエス団にとって新しくミッションが掲げ
られた年。賀川献身100年の年。この大切な一年に
研集会に於いてもテーマを掲げ、企画を進めること
となりました。そして、「ブラッシュアップ」・「幹部・
主任研修」共に、『ミッションステートメント2009
の共有』、『ジーザスバンド(ロゴマーク)からクリス
トに倣う』この大きなテーマを中心に自己を検証
し、自己の、施設の、イエス団の新しい課題を仲間
と共に探る。と言った内容の研修会を準備いたしま
した。内容への評価・感想につきましては、報告の

ありました通りです。それぞれの先生方が、研修会で
学び掲げたミッション・決意を、各施設の働きの中で
発揮されていることと思います。短い時間の中ではあ
りましたが、スタッフとして参加した私自身が、学び
の多い恵まれた時間を過ごすことができ、感謝の思い
で溢れています。何よりも参加された職員の方々の思
いが「熱い」事に感激いたしました。そして、皆さん
がご自身の施設をととても愛されていることを感じま
した。このような職員の方々の働きが、2010年
イエス団の新しい時代を築いていけるのだろうと、
確信いたしました。

研修会スタッフ

イエス団施設トピックス



完成 賀川記念館

賀川記念館は、コミュニティセンターとして
のさまざまな活動をしていくためにつく
られました。研究、調査、プログラム開発
のための総合研究所、発信拠点であるミュ
ージウムとアーカイブズ、実践の場として
の幼児園とラウンジ、これらを支える教会
とすべてが一体となって歩みます。

-館内案内-

1F 医療モール（テナント）

2, 3F 友愛幼児園

3F 賀川記念館事務局・イエス団法人本部

4F 総合研究所研究室・ミュージウム・
アーカイブズ・メモリアルホール・神
戸イエス団教会・カフェラウンジ

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20

Tel : 078-221-3627 Fax : 078-221-0810

-WEB-

<http://www.core100.net/index.html>



新設 ガーデン エル・ロイ

乳児院ガーデン エル

児童養護施設ガーデン ロイ

母の病気や次子の出産のため、あるいは虐
待や遺棄の難を避けるため、あるいは格差
社会、貧困のために家庭生活の中断を余儀
なくされた子ども達。

ガーデンエルロイは、そうした子ども達を
大切にお預かりし、健やかに育みます。家
庭支援を展開し、早期に家庭復帰できるよ
う努めます。帰る家庭の無い子ども達には、
養親や里親による受け入れを推進します。
その後も、家庭や養親・里親を支援する働
きを続けます。総ての幼な子が「生まれて
きて良かった」「お母さん、産んでくれてあ
りがとう」といえる社会を求めて、ガーデ
ンエルロイは出発します。

〒579-8052 東大阪市上四條町 24 - 23

Tel (エル) : 072 - 985-4772

Tel (ロイ) : 072 - 985-4773

Fax (共通) : 072 - 985-4730

-WEB-

<http://www.el-roi.jp/index.html>



園舎改築 聖浄保育園

十数年来の想いでありました園舎建て替
えを終え、イエス団の100周年記念の年に
献館式を迎える事ができたことに神様の
業の不思議さを感じるとともに、多くの方
の祈りと支えに改めて感謝するばかりで
す。1937年に聖浄会館として建てられた創
設の理念と、地域の社会福祉の為に努めて
きた歴史の重みと、新たな歩みへの決意を
持って、一つひとつの小さな命の育みに心
を注いでまいります。

0~5才児 定員 120名

学童 定員 20名 (1~3年生)

保育時間 7:00~21:00

〒544-0022

大阪市生野区舎利寺 3-9-10

Tel : 06-6731-5713

-WEB-

<http://www.ans.co.jp/n/seijyo/>

編集後記

賀川豊彦献身100年を迎えた2009年は、イエス団はもとより兵庫県・神戸市や賀川豊彦先生の事業にかかわる各種団体により神戸プロジェクトが起ち上げられ、100年シンポジウム事業や記念事業などが行われました。またイエス団理念委員会を中心に、職員の参画によるミッションの策定やイエス団職員大集会など、多くの方々により、さまざまな取り組みがされました。それは、次の100年に向けてのいわばキックオフでもあります。これらのすべてを12号の紙面だけでは、とうていカバーできません。今後のイエス団報で取り上げていきたいと思います。多くの方々に支えられ、協力いただき、イエス団報12号が発行できたことに感謝します。

イエス団報編集委員会